

アセットブレイク仙台ネットワーク

資産活用をサポートするコンサルティング活動を行っているアセットブレイク仙台ネットワーク(事務局・仙台市泉区上谷刈1の7の35 佐々木正之事務局長)は、10月26日(金)の13時30分から17時まで、仙台市青葉区国分町の仙台パークビル2階にあるTKPガーデンシティ仙台勾当台・ホール1で「不動産ファンドフォーラム2018イン仙台」地方都市における地方創生セミナーを開催する(参加費無料)。不動産証券化協会、日本不動産研究所、仙台商工会議所不動産部会、本紙などが後援する。

J-REIT市場は今年7月時点で上場60社、

資産規模17・5兆円、このうち仙台・東北圏は資産規模3437億円(資産件数145件)となり、東北6県全ての都市に投資され成長を続けている。また、昨年12月に閣議

している。今回のフォーラムでは各地で実践された14事例の概要紹介のほか、地方都市での不動産証券化ビジネスの可能性などについて専門家が解説する。

不動産流動化・証券化の地方実例紹介など

10月26日TKPガーデンシティ仙台勾当台

本紙など後援 不動産ファンドフォーラム2018イン仙台

決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「地方創生に資する不動産流動化・証券化に関する事例集」を取りまとめ、地域に眠る不動産を「稼げる不動産」、「地域価値を高める不動産」に転換していくことを促

フォーラムは3部構成で、冒頭挨拶の際に佐々木事務局長が仙台・東北圏の最新不動産投資市場の動向について説明する。その後、第1部では「不動産証券化市場の成長と不動産証券化協会の役割について」として、

一般社団法人・不動産証券化協会の内藤伸浩専務理事が不動産投資・証券化市場の発展経緯や最新動向、さらなる成長に向けた課題について説明する。

第2部では「地方創生に資する不動産流動化・

証券化のポイント」として、一般社団法人・日本不動産研究所の佐野洋輔研究部特定調査室室長が、地方の不動産流動化・証券化事例集から3分野の14事例を紹介する。第3部では、公立大学法人・宮城大学事業構想

学群の田邊信之教授が「日本の不動産投資市場の現状と今後の展望」に關して、特に金融環境の変化が不動産投資市場へ及ぼす影響について解説する。

定員は150名(申込者多数の場合は抽選)で、セミナーへの参加希望者は、企業名、部署・役職、参加者名、住所、電話・FAX番号、Eメールアドレスを記入の上、①FAX 022-371-6880または、②Eメール asset10@acanone-net.jp に申し込む。問い合わせは、アセットブレイク仙台ネットワーク事務局 ☎022-773-6685。

# 河北新報

2018年(平成30年)10月20日(土)

## 東北情報

### 26日不動産フォーラム

不動産関係者らでつくるアセットブレイクス仙台ネットワーク(仙台市)は26日、「不動産ファンドフォーラム2018イン仙台」を、青葉区のTKPガーデンシティ仙台勾当台で開く。

不動産証券化協会の内藤伸浩専務理事が、不動産証券化市場の成長や最新動向について説明。日本不動産研究所の佐野洋輔特定調査室長は「地方創生に資する不動産流動化・証券化のポイント」と題し、東北などでの事例を紹介する。宮城大の田辺信之教授は不動産投資市場の現状と展望について解説する。

午後1時半～5時。参加無料。

定員150人。事前の申し込みが必要。連絡先はネットワーク022(773)6685。